自由教育 自治教会 両者併行 国家万歳

自由教育 自治教会
両者併行 国家万歳

新島の残した言葉のうちの一つ、「自由教育 自治教会 両者併行 国家万歳」（広津友信宛、1889年11月、『新島襄全集4』）は、かれの信仰、哲学、また教育思想を凝縮した言葉である。

新島が出会った北米のニュー・イングランドのキリスト教は、とりわけイギリスのキリスト教が、国家によって管理された「国教会」であることを拒否し、信仰者が形成する共同体である教会が国家からの自由を求め、キリスト者はただ神の前に平等であることを主張する「分離派・独立派」のキリスト教が源流であった。そしてこれはアメリカ建国の理念ともなった。

ここでいう「自治教会」とは、徹底して自立した個人によって形成される共同体を指す。そして何者によっても冒すことが出来ない自立した人物がその基礎である。その自立した人物を生み出すことが「自由教育」である。したがってこの両者は、車輪の両輪である。

この意味するところは、教会も学校も、時代の中で翻弄され、国家に寄り添い、あるいは国家に庇護を求めて存在することを拒否し、これらを超えたところにこそ目指すべき課題があることを宣言する言葉である。昨今の日本で喧伝される、見た目に分かりやすいランキングや他者評価などによっては決して評価することができない視点がここにある。